



## 46 歳男性咬まれて一か月後に発症死亡 理由はワクチン未接種

未来网 www.k618.cn 2013-10-28 07:16:00 半岛网-半岛都市报

内容概要：10 月 27 日正午 12 時、狂犬病発症後二日で胶州市（宮本注：胶州市は山東省青島市直轄の県級市）の 47 歳の男性が不幸にも亡くなった。情報によると、この男性は、一か月前に猛犬に咬まれ、その後病院に行かず、狂犬病のワクチン接種をしておらず、凶らずも突然発症したとのことだ。

10 月 27 日正午 12 時、狂犬病発症後二日で胶州市（宮本注：胶州市は山東省青島市直轄の県級市）の 47 歳の男性が不幸にも亡くなった。情報によると、この男性は、一か月前に猛犬に咬まれ、その後病院に行かず、狂犬病のワクチン接種をしておらず、凶らずも突然発症したとのことだ。10 月 25 日午前、この男性は、青島市伝染病病院に転送されたが、専門家はもう助けることができないと診断した。記者は、2008 年以来、青島の狂犬病患者が年を追うごとに増えており、この 6 年ですでに 30 人以上の命が失われたと聞いた。専門家は、現在青島には 140 以上の狂犬病予措置外来があり、咬まれたら、まずすぐに狂犬病ワクチンの接種を受けることが必要だと語る。

### 犬に咬まれて一か月で発症

10 月 25 日正午に胶州の一名の狂犬病の発作尾を越した患者が青島市伝染病医院に運ばれてきた。情報によると、伝染病医院での治療を行う前に、この男性は既に胶州中心医院で治療を受けていたが、症状が比較的重かったこともあり、男性は更に転送されて治療を受けることになったそうだ。事情を知る人からの話では、この中年男性は胶州市の郊外のある村に住んでおり、一か月前に一匹の猛犬に咬まれたが、傷の状態も重くないということで、意識せずに、簡単に傷口を洗って包帯を巻いたが、狂犬病ワクチンの接種はしていなかったと話してくれた。

「狂犬病ワクチンを打っていなかった為に、噛まれてから一か月で狂犬病の発作をおこしたのです」インタビューの中で、事情を知っているという張さんは記者に語った。この男性は突然自宅近くで興奮仕出し、家族にできることは彼を胶州中心医院に運ぶことしかなかったと。『その時には家族は、茫然としていてだれひとり、一匹の犬との関係性について思い当たらず、直接医院に行き結果が出た時に、一か月前にこの男性が犬に咬まれたことと、狂犬病ワクチンの注射をしていなかったことを思い出したのです』張さんは語った。

### 発症後僅か二日で帰らぬ人に

10 月 27 日午前、記者は彼伝染病医院に到着した。その際に、一人の医療スタッフが記者に語ったところでは、この男性は今年 47 歳で、既に治療できることが無かったこともあり、10 月 26 日午前 1 時に家族が胶州に送り返すことを最終的に決定した。

医療スタッフが言うことには、臨床症状は狂犬病では興奮型と麻痺性の二つのタイプがあるが、興奮型がもっとも多く見られるとのことだ。興奮型は、前駆期と興奮期、麻痺期に分類され、前駆期は 1~4 日続き、興奮期は一般には 1~3 日で、麻痺期の持続時間は比較的短く、一般的には 6~18 時間とされている。病気の期間は平均で 4 日、一般的には 6 日を請えず、10 日を超えるものもごくわずかにみられるそうだ。

「病院に運ばれた時点では、多くの患者さんたちは既に興奮期を終えて麻痺期に入っており、静観する可能性は少なく、ご家族は入院させないことを決定するのですが、我々には入院を強制することができないのです」医療スタッフは語った。

その後、記者は胶州中心医院から 10 月 27 日の正午 12 時前後にこの男性が亡くなったと聞いた。

### 6 年で 30 人以上の人命が

情報によれば、2008 年前の青島では 10 年以上の長きにわたり狂犬病の報告は無かったが、2008 年になってから再び狂犬病が逸りだし、2008 年から 2013 年 9 月までに既に 30 余人の報告があり、全て死亡してい

るが全て犬に咬まれたことによる発症例であるとのことだ。死因は例外なく全て犬に咬まれた後速やかに狂犬病ワクチンの接種を行っていなかったことにあるという。

また、最近二年間は、毎年6~7万人の犬などの動物に咬まれた人が狂犬病暴露処置外来に来て基本措置を受けているが、発症した人が全て有効なワクチンによる保護措置を受けていなかったことから、この数字には、更に膨大な数の処置を受けていない人がいるものと思われる。「咬まれたら、傷口の深さや大きさには拘らず、すぐに病院にゆきワクチンを打たねばならず、運を天に任せてはならないのです。」と青島市疾病予防管理センターの関連専門家は言い、現在、青島には140以上の狂犬病処置予防外来があるが、狂犬病の発作が起こる前にワクチンを打っておくことは必要であり、それをして初めて有効に病気をコントロールできるのだとした。

### 提案 近郊の狂犬等の管理強化をせねばならない

記者がインタビューをしてきた中では、発症の多くが農村であった。ここ数年来、狂犬病患者が年々増加しており、その根本的な原因は狂犬病の犬が原因であった。多くの近郊住民たちからは、関連部門はこの野良犬（流浪犬は、直訳すると「さまよい犬」であり、野良犬とも限らない点ご注意ください）の管理を強化すべきだとの声が上がっており、特に農村の狂犬が日増しに増加しているという現状では、農村の管理をしっかりと引き締め、その手を緩めてはならないと言われている。『強制的なワクチン接種をし、一匹ごとの犬に対して免疫注射を施したり、検疫や防疫の登録と動物病院等の獣類診療機構の監督管理を保証することが必要だということ』だ。

この他に、狂犬病の予防管理は、現在、人間に対してはワクチンを打つことが多いが、犬に打っているところは少なく、これも一面で狂犬の出現につながるお粗末な管理を反映しているといえる。狂犬病は、一種の『予防は可能だが治療は不可能な伝染病』である故に、予防治療上とても重要なことと思える。狂犬病の死亡率はほぼ100%ではあるが、狂犬病は、実際に「撲滅」することが可能なのだ。英国や日本等の国ではそのエビデンスもあり、これらの国の経験では、まずキッチリと犬の管理をすることから始まるのだ。狂犬病は制御しなければならないが、専門家からは「三つのしっかり」が提案されている：一、飼い犬の文明化をして、さまよい犬を厳重に管理すること；二、動物への免疫接種をしっかりとて予防活動を実施、全ての犬に対してワクチン接種を有効に行うこと；三、人間の場合、犬に咬まれた場合にはすぐに接種を受けることが必要だ。

本年3月12日午前のことだが、記者は青島市伝染病医院である老人のご家族と会うことができた。老人の姓は藍、即墨市（山東省青島市に位置する県級市）出身人で、今年60歳だった。藍さんは、自宅で一匹の雑種犬を飼っており、非常にこの犬をかわいがっていた。2012年6月ごろのことだったが、この犬が、老人と家にいた二人の子供に咬みつき傷を負わせた。事件発生後、二人の子供は直ちに病院に運ばれて狂犬病ワクチンを打ってもらったが、老人は注射には行かなかった。そして、今年の3月12日午後8時、藍さんは無くなった。「藍爺さんが咬まれたのは、左手親指で、傷口も大きくはありませんでしたが、もしあの時に狂犬病ワクチンを接種していたら、こんなことにはならなかったのに」と何人かの医療スタッフが次から次へと語った。

記者 曹凱傑 徐新東

[http://news.k618.cn/kx/201310/t20131028\\_4098592.html](http://news.k618.cn/kx/201310/t20131028_4098592.html)

..... 以下は中国語原文 .....

### 47岁男子被狗咬一个月后发病身亡 因未打狂犬疫苗

未来网 www.k618.cn 2013-10-28 07:16:00 半岛网-半岛都市报

内容提要：10月27日中午12时，在狂犬病发两天后，胶州一名47岁的男子不幸身亡。据介绍，该男子曾在一个月前被一条恶犬咬伤，之后并没有到医院注射狂犬疫苗，不料突然病发。

10月27日中午12时，在狂犬病发两天后，胶州一名47岁的男子不幸身亡。据介绍，该男子曾在一个月前被一条恶犬咬伤，之后并没有到医院注射狂犬疫苗，不料突然病发。10月25日上午，该男子被转到青岛市传染病医院，经过专家诊断已无药可救。记者了解到，自2008年以来，岛城狂犬病例逐年增加，六年来已经夺走30多人性命。

专家表示，目前青岛有 140 多个狂犬病处置防疫门诊一旦被咬后，要第一时间注射狂犬疫苗。

### 被狗咬一个月后发病

10 月 25 日上午，胶州一名狂犬病发作的患者被送到了青岛市传染病医院。据介绍，在进入传染病医院治疗之前，该男子已经在胶州中心医院治疗过，但因病情较重，男子这才被转院治疗。

知情人士透露，该中年男子家住胶州市郊外一个村子里，一个月前被一条恶犬咬伤，由于伤势并不是很重，当时并没有在意，只是简单包扎了一下，清洗了一下伤口，并没有打狂犬疫苗。

“因为没有注射狂犬疫苗，被咬的一个月后狂犬病发作。”采访中，一位知情者张先生告诉记者，该男子突然在家里边兴奋起来，家属只好将他送到了胶州中心医院。“当时家属都蒙了，根本没有人想到会跟一条狗有关系，直到医院的结果出来后，家属才想起来，一个月前该男子真被恶狗咬过，而且确实没有注射狂犬疫苗。”张先生说。

### 发病仅两天不治身亡

10 月 27 日上午，记者来到了市传染病医院。期间，医护人员告诉记者，这名男子今年 47 岁，因为无法医治，在 10 月 26 日凌晨 1 时许，家属最终还是决定将他送回胶州。

据医护人员说，根据临床症状狂犬病分为狂躁型和麻痹性，其中狂躁型最为常见。其中狂躁型又分为前驱期、兴奋期和麻痹期，前驱期持续 1~4 日，兴奋期一般 1~3 日，麻痹期持续时间较短，一般为 6~18 小时。整个病程平均 4 日，一般不超过 6 日，超过 10 日者极少见。“送到医院来的时候，其实很多患者已经过了兴奋期进入麻痹期，生还的可能性不大，家属决定不住院，我们也不能强制留住。”医护人员说。

事后，记者从胶州中心医院了解到，10 月 27 日中午 12 时左右，该男子身亡。

### 六年夺走 30 多条人命

据介绍，在 2008 年之前，青岛曾长达 10 年没有一例狂犬病发病报告，但 2008 年再次出现狂犬病疫情，而且自 2008 年至 2013 年 9 月份，已报告 30 余例，全部死亡，而且均为犬咬伤发病。死亡原因无一例外，都是被狗咬伤后没有及时注射狂犬病疫苗。

据介绍，近两年，每年约 6 到 7 万被犬等动物咬伤的人到狂犬病暴露处置门诊接受规范处置，可能还有更庞大的被伤人群没有接受规范处置，因为所有发病的人均未采取有效的疫苗保护措施。“被咬伤后无论伤口深浅大小，一定要第一时间去医院打疫苗，千万不要抱着侥幸心理。”青岛市疾控中心的相关专家表示，目前整个青岛有 140 多个狂犬病处置防疫门诊，只要在狂犬病发作前去打疫苗，就能有效地遏制病情发作。

### 建议 郊区狗患严重应加强管理

记者采访案例中，发病多在农村。近几年来，狂犬病患者在逐年增加，其根本原因在于狗患。

不少郊区居民建议，有关部门应该加强对流浪狗的管理，特别是农村狗患越来越严重的当下，做好农村管理刻不容缓。“而且要强制免疫，保证每一条狗都能进行免疫、检疫、防疫登记和犬类诊疗机构的监督管理。”

另外，防控狂犬病目前疫苗给人打得多、给狗打得少，这也从一个侧面反映出了狗患的疏于管理。狂犬病是一种可防不可治的传染病，所以在防治上显得尤为重要。虽然狂犬病的死亡率几乎是 100%，但狂犬病其实是可以被“消灭”的，而且在英国、日本等国家也有证实，而这些国家的经验就是首先管好了狗。要控制狂犬病，专家指出做好三点：一是要做好文明养狗，严管流浪动物；二是严格动物免疫，做好防疫工作，使得每条狗都能有效地进行免疫；三是人，一旦被狗咬后要第一时接种。

### 回顾 被咬 9 个月狂犬病才发作

今年 3 月 11 日晚上 10 时许，一辆 120 急救车载着一位狂犬病发作的患者由青医附院东区转入青岛市传染病医院。几分钟后，急救车赶到市传染病医院。“他是两天前犯的病，但刚开始并没意识到是狂犬病，一直觉得是普通的感冒。”一位医护人员表示，两天里老汉的病情越来越严重。

今年 3 月 12 日上午，记者在青岛市传染病医院见到了老汉的家属，记者了解到，老汉姓蓝，来自即墨，今年 60 多岁。蓝老汉曾经在家里喂养了一条土狗，很细心地照顾着这条土狗。可 2012 年 6 月份，这条土狗竟将他和家里的两个孩子咬伤。事发后，俩孩子被紧急送到了医院注射了狂犬疫苗，唯独老汉没有去注射。今年 3 月 12 日晚 8 时许，蓝老汉不幸去世。“老汉被咬伤的部位是左手的拇指，伤口也不大，如果他当时注射狂犬疫苗的话，就不至于如此。”几个医护人员纷纷表示。

记者 曹凯杰 徐新东